

ド・カンケランさんとの出会いとアンさんの結婚

栗倉輝彦

1979年10月から1980年1月の約3ヶ月間にわたる北海道研究職員海外研修制度による海外研修で、最後の研修先がフランス国立農業研究所魚類病理研究室であり、ド・カンケランさんはこの研究室長であった。

国立農業研究所はパリのモンパルナス駅から普通列車で、約30分のところにあるチベール・グリニオンという町にあった。

海外研修の研修先は、当時の北海道大学水産学部の故木村喬久先生と相談し、1977年にアメリカのワシントン州シアトルで開催された「養殖サケ科魚類の魚病に関する国際シンポジウム」に招待された魚病研究者が所属する研究機関から選択したが、彼もこのシンポジウムに招待されていた。

訪問の最初の日、会うなりに「家内にトラブ

ルがあってホテルに迎えに行けなかった」と謝られた。後になって分かったが、トラブルというのは、お産を控えていたためであった。彼が43才になっての初めてのお産は、小生の滞在3日目の1980年1月4日の夜であった。お産の次の日、土曜日であったので、午後、ベルサイユ宮殿を案内していただいたが、この時、前日に無事、女の子を出産したことを聞き、「おめでとう」というと、「お祝いを言ってくれたのは、貴方が始めてだ」といわれた。今、思うと彼の大変な時期にお邪魔し、家にも呼んで頂いて、奥様のお母様から心のこもったおもてなしを受けたことになる。

帰国後、クリスマスカードの交換が続いたが、3年目から愛娘、アンさんの写真を必ず同封してくれるようになった。



30年前の魚類病理研究室のスタッフ（右端：ド・カンケランさん）

◎彼が送ってくれたアンさんの写真 (1983~2001)



*

* : 20 才のお祝いに送った扇子とともに撮った写真

海外研修から10年後の1990年8月、パリで「第7回国際寄生虫学会議」が開催された。この時、小生はすでに55才、家内は53才になっていたが、現広島大学教授の長澤和也さんのお

誘いもあって、初めての家内同伴の海外旅行をした。当然であるが、10年振りにド・カンケラさん宅を訪れた。



この時、愛娘のアンさんは10才になっていた（下の写真：前列左から二人目）

何年か前に新築された彼の研究室は大変立派になっていた。

次の年、1991年10月に北海道大学水産学部の故木村喬久先生が主宰する「サケ科魚類の魚病

に関する国際シンポジウム」が札幌で開催され、ド・カンケランさんも招待されたので、新しくなった恵庭の庁舎も見ていただいた。



新しい研究所の実験室で記念撮影



懇親会で歓談するド・カンケランさん、家内、高知大学の楠田先生ご夫妻

2005年8月、クロアチア共和国ルダールボスコビッチ研究所の招きで、ザグレブを訪れることになったが、この機会にパリに寄り、彼とご家族にお会いできた。

アンさんは25才になっておられ、1日、レン

タカーでパリ市内を案内してくれた。この時、「結婚される時はお祝いを贈りたいので、知らせたい」と伝えておいた。

2007年に彼は27才になったアンさんの写真を送ってくれた。



自宅での夕食(左からド・カンケランさん、小生、娘、家内、息子および鈴木さん)



案内してくれたトヨタのレンタカーとアンさん



ルーブル美術館の「ナポレオンの戴冠式」の前で



27 才になったアンさん



2009年の3月、ド・カンケランさんからメールが入り、アンさんの結婚式が5月9日に行われることを知った。早速、お祝いの品を送ったら、式の後、写真とお礼のパワーポイントを送ってくれた。

あとがき

ド・カンケランさんは、現在も30年前と同じ、ベルサイユ宮殿に近い、ノイジ・レ・ロイに住んでおられる。彼は小生より1才年下であるので、今年、74才になった。お互いに英語を母国語としないが、お会いした時のお話もメールのやりとりも英語である。5年前にレンタカーでパリを案内してくれたアンさんも英語が達者であった。

30年前に初めてパリを訪れた時は、駅の出札係にも英語が通じるのに時間がかかったが、5年前には、どこでも英語でコミュニケーション

ができた。この25年間でフランスは大きく変わったのだと思う。

5年前には、彼は愛車のルノーに乗っていたが、アンさんのレンタカーと同様、マニュアル車で、街に駐車していた車の殆どがマニュアル車であった。30年前のカナダやアメリカでは、すでにスポーツカーを除いて、殆どがオートマ車になっていたが、日本ではまだマニュアル車が主流であった。年を経ると変わるものが多いが、国によっては、なかなか変わらないこともあるようだ。

30年前に小生が滞在中に生まれたアンさんが、昨年、29才で結婚した。彼が毎年、写真を送ってくれたお陰で、アンさんの成長を楽しみにしていたが、5年前にレンタカーで、70才になった小生を一日パリの街を案内してくれた配慮には、大変感激した記憶がある。

アンさんは、結婚前はド・カンケランさんが購入したパリ中心部のマンションに住んでおられ、5年前には両親もノイジ・レ・ロイから出てこられて、マンションで夕食をご馳走になった。その時、話していたが、パリ市内では車を持つと駐車場などに経費がかかり、大変なので、必要な時はレンタカーを利用するそうだ。なお、アンさんは、文化系の大学を卒業され、フリーライターを職業にしており、必要に応じて、外国に出張することもあると言っていた。

仕事の関係で、交流のあった外国人が何人かいたが、家族を含めて30年も交流のあったのはド・カンケランさんだけである。アンさんのお陰で、博士との交流が30年続いたことになるが、この次の楽しみは、お孫さんの写真が送られてくることであろう。

2010年8月1日

(あわくらてるひこ：元場長)

追記 : 彼の8月19日付のメールに、アンさんに孫娘のアルマさんが8月5日に誕生した報告と、8月11日に写した写真が添付されていた。誕生後6日目の写真である。彼は74才で祖父になったことになるが、本当に嬉しかったのだと思う。

アンさんの写真は3才から送っていたが、早速、アルマさんの3才までの写真を要望しようかと思っている。



2010年8月5日に誕生した孫娘、アルマさん
(8月11日撮影: ベビー服が魚のアップリケで飾られている。おそらく、彼のプレゼントだと思う)

(2010年8月23日)

追記 : 彼の2011年1月18日のメールにクリスマスに写した奥様とアルマさんの写真が添付されていた。(珍しいことのようにだが、一緒にベルサイユのマンション近くに降り積もった雪の写真が添付されていた)



クリスマス・ツリーの前のアルマさんと奥様



遠くに見えるのがド・カンケランさんのマンション

(2011年1月19日)

追記 : 2011年8月8日のメールにアルマさんの満1才の誕生日(8月5日)の写真が添付されていた。



アンさん、アルマさんと奥様



満1才のアルマさん

(2011年8月8日)

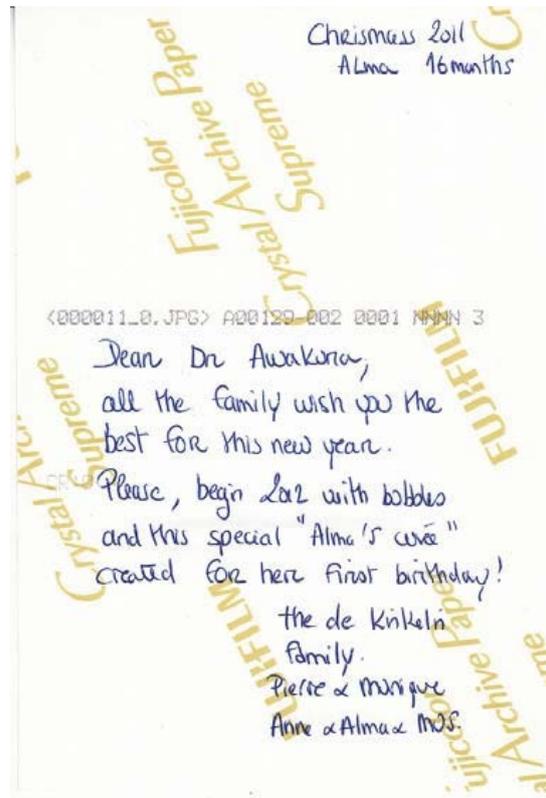
追記 : 2012 年 1 月 6 日 アルマさんの写真のラベルが付いたシャンペンが届く (2011 年 12 月 31 日に発送)。昨年のクリスマスに写したアルマさんの写真が同封され、その裏に年賀状が書き込まれていた。



送られてきたアルマさんの写真入りのラベルが付いたシャンペン (写真裏に書き込まれた年賀には「昨年満 1 歳の時、作られた」とある)



2011 年のクリスマスに写された写真
(誕生後 16 カ月)



写真の裏に書き込まれた年賀状

(2012 年 1 月 6 日)